

夢想兵衛胡蝶物語後編

四

~13
3845
9



山水世小勝。好風好景。比る。彼仁者。ハ山と樂と。智者ハ水と。
 肱を曲て。枕と。樂む人も。ふある。されば。國王の。
 色と。酒と。嗜む。仁小居。忘る。
 用る。大海の。百川と。容る。
 と布る。牙の。
 壊る。五穀豊稔。穂小穂と。
 譲る。路ゆり。の。
 兄弟ハ。莫逆も。妻子ハ。和合。親族ハ。睦。
 せど。購りの。も。又。直減ら。
 拂ひの。檀那。
 智の。不結。

叙く。も。仁と。
 近き。も。
 木小。連理。
 ハ。僅小。
 されば。又。大臣の。政と。
 むら。ひ。
 を。迎へ。
 喜。
 の。
 晦日。
 一の。持。

されふとるりのみ。浅ありりの浅を散じて。浅を積るとも。足るる
りの油断りく。挿て人せらふぬと樂と。主の家隸の能不能と。をもて
それく。憐れ親をよとて。拾銀のやをよとせ。親の子小教へ導ん
善人小志とてあぐる。紙樂とて。義服を被せ。花子小装せ。後気
小志とて。物見清ふつとて。出るとよとせ。子ハ親同胞。孝悌とて。親同
胞小教。紙樂とて。或ハ友を集め。或ハ夜寝ひ。小志とて。婦ハ夫
小弁肩て。操節正しく。内と治るとよとて。衣裳揃ひ。浅を費し。
女児の教へ入。小假托て。哥舞伎。女ゆとよとせ。明車ハ隔る。断金の
変じて。練練らうと。よとせ。女ハ親教へ。女ハ女と。神主ハ初穂乃
女とて。樂とせ。且氏子の為。小丹精と。抽て。その福と。祈ると。樂とせ。と
りて。初穂乃。和尚ハ又布施の事と。よとせ。檀那の為。小流経と。と

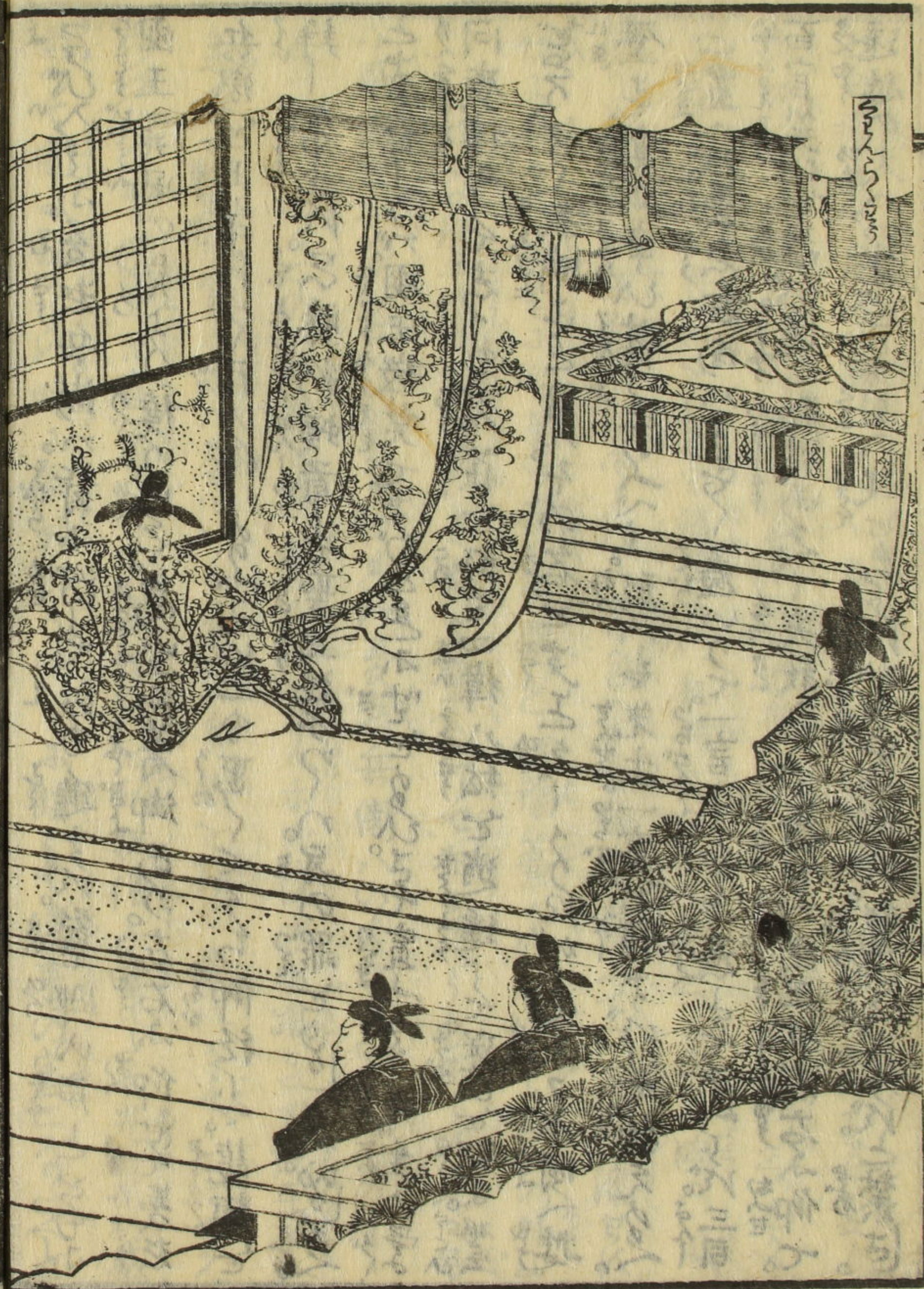
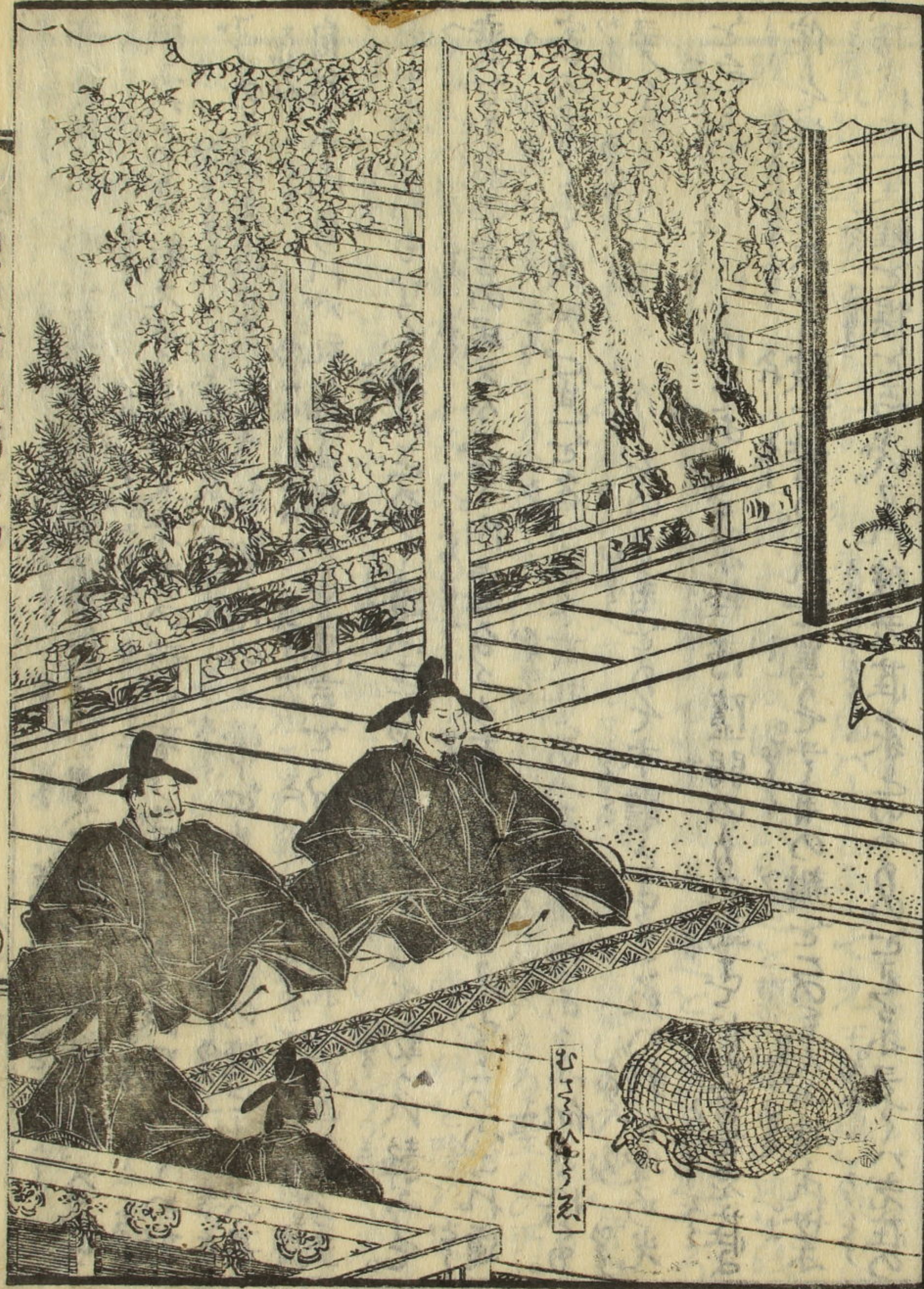
楽とせ。もあふ。ものづら。布施乃。医師ハ病家の貧福と。茶札の軽
重と。えらぶ。方と。えら。茶と。擇む。病と。愈と。女と。よと。五弟供
小茶札乃。凡文武の師。し。の。二季の。謝表と。よと。せ。と。く
教育と。道と。伴へ。業と。授ると。樂と。と。る。も。女。小。名。實。四。海。小。溢。と。て。き
ざる。りの。のみ。子。ハ。その。藝。小。な。び。て。才。小。誇。ると。樂と。せ。と。其。言。の
と。慎。師。と。教。ひ。代。を。排。ら。ざる。と。よ。と。と。其。の。よ。ハ。所。の。く。は。び。ら。ぶ
と。い。も。五。常。の。道。小。違。入。め。の。る。は。れ。ば。女。も。あ。ま。つ。あ。つ。て。哀。と。る。喜。び
あ。ろ。の。め。も。の。憂。な。し。か。る。國。ハ。生。じ。る。畜。生。ハ。畜。生。相。夜。の。よ。と
あれ。ども。馬。ハ。轡。と。外。に。跪。る。と。女。上。と。せ。と。人。と。女。物。と。負。ひ。あ。つ
ま。の。駄。賃。と。よ。と。と。牛。ハ。角。と。あ。つ。て。人。と。突。と。と。よ。と
せ。と。車。と。ひ。た。て。山。阪。と。上。下。し。主。の。為。小。挿。と。と。大。ハ。門。と。戌。と。賊。と。防

ども。瘠りつ足ふの端こゝろ。愛忠兵衛の忽地小顔。土のどく変り。
 只阿唯とと驚く。獲ていそびつ。王城へ誘引せしむ。城門三つをく
 とる。小門下小器械をちりど。護りめの礼儀正して。ものづら上。團乃風
 あり。既正殿うとちり。宮舎の杉皮葺きて。門扇小漆せし。
 椀は画く。鳩尾小形せし。布承塵と。伊豫簾うけし。して。この外は
 つらひる。上代の容るれど。奇々整々として。犯さず。由おとす。毎
 小感涙と拭く。とらふ。けし。愛忠兵衛のいふ。おとす。すなり。
 よそ。治る。この聖徳と感佩し。彼官人ホが。後方小跟。さて。飲茶殿へ
 参り。ふけ。官人ホへ。恭しく。愛忠兵衛を。おて。参れる。す。と。す。え
 あげ。す。か。て。三。百。官。忌。止。す。と。ち。の。袖。と。列。後。儀。と。堂。々。と。光。景。の。威
 ある。て。固。よ。猛。く。は。時。小。衣。冠。の。人。階。下。小。臨。ま。て。遠。来。の。客。と。る。こと。

よ。び。入。り。ふ。愛。忠。兵。衛。の。背。小。汗。と。び。も。進。ず。は。警。蹕。の。声。と。こ。も。小。
 國王。屏。風。の。背。より。獲。り。出。く。高。坐。小。著。脚。あり。左。右。小。仰。せ。愛。忠。
 兵。衛。と。玉。坐。ら。く。石。の。海。の。ま。ま。い。と。も。あ。り。て。うち。仰。せ。龍。顔。を
 拜。し。な。ら。ば。只。膝。の。頭。首。と。聖。王。移。り。の。身。の。罪。を。し。ら。ぬ。ゆ。じ。ぬ。
 と。さ。う。せ。ら。く。國王。微笑。て。さ。づ。き。小。言。せ。の。ひ。さ。を。宣。ふ。や。う。先。生。の。学。
 問。廣。博。あり。と。ま。く。も。老。莊。を。好。む。四。律。八。絃。を。逍。遙。し。て。選。び。を。釈。ふ。ゆ。
 と。さ。う。よ。く。教。諭。さ。と。る。ん。その。名。を。愛。忠。と。し。ら。ぬ。か。て。又。こ。の。國。へ。推。
 歴。せ。し。實。小。幸。ひ。甚。し。い。べ。い。が。入。り。先。生。一。言。を。惜。ま。ず。ば。と。教。え。の。人。
 と。宣。へ。ば。愛。忠。兵。衛。の。ま。ま。く。羞。い。り。て。一。言。半。句。も。言。へ。な。ら。ず。三。司。
 百。官。笑。ひ。を。び。び。速。小。勅。答。あ。る。と。失。教。あり。と。促。せ。ば。國王。亦。左。右。小。仰。て。
 遠。遊。の。人。の。い。ま。は。こ。の。國。の。旋。を。ま。ら。ば。驚。と。ら。ぬ。と。驚。と。ら。ぬ。と。禁。は。

蘇林共備後編卷四

四



木下村

夢枕

おきく

おきく

亦爰其無碍のこま不宣せん入まり。先生道家の説を唱なへて。彼此の國俗を論ろんるらら。
 朕みづかふらのとて教しえる。朕みづかも又老莊の説を取とるらあらばは只ただふらの好
 ぶらのこは老莊家の仁に義ぎ礼れい智ち信しんの五常ごかうをりて先儒の迹あとをく。其その
 自然まじふら因よるられば。礼れい節せつは拘くむらむら言げんをらのとて。玄けん北へいの門かどはたげら夫それ
 形かたちもる。形かたちもらひく。逆さか入まるら。違ちがふらのこ。卑ひさら不ふ居ぐくら動うごくらは静ふらて。
 変かへらせらどかの言の成るらどく。内うち虚こるらがなふら。その形かたちをんどのいふこれ道みち
 家の肯けんととて取野の。且かつと名づけて玄北へいといふら。その辨べん理りあらふら似にくらも。
 尋たづぬら人ひと問とふら用もちるら。りのその言用もちとりて本體ほんたいといふら。これの形かたちを埋め光
 と色いろものいふ。語ことばをばくらあらぶら。不ふ輕かろ薄うす墮お弱じやくのの動うごくらは言を老莊の
 侘わくら形かたちと放ちし。彼かれと言ふら。これと罵ののくら。其その辨べんといふら人ひと捨すれ世不ふ
 捨すて一生せい涯げと悞とまらば。且かつ彼かれ老莊家のといふらのといふ不ふ尋たづぬらくら老莊の

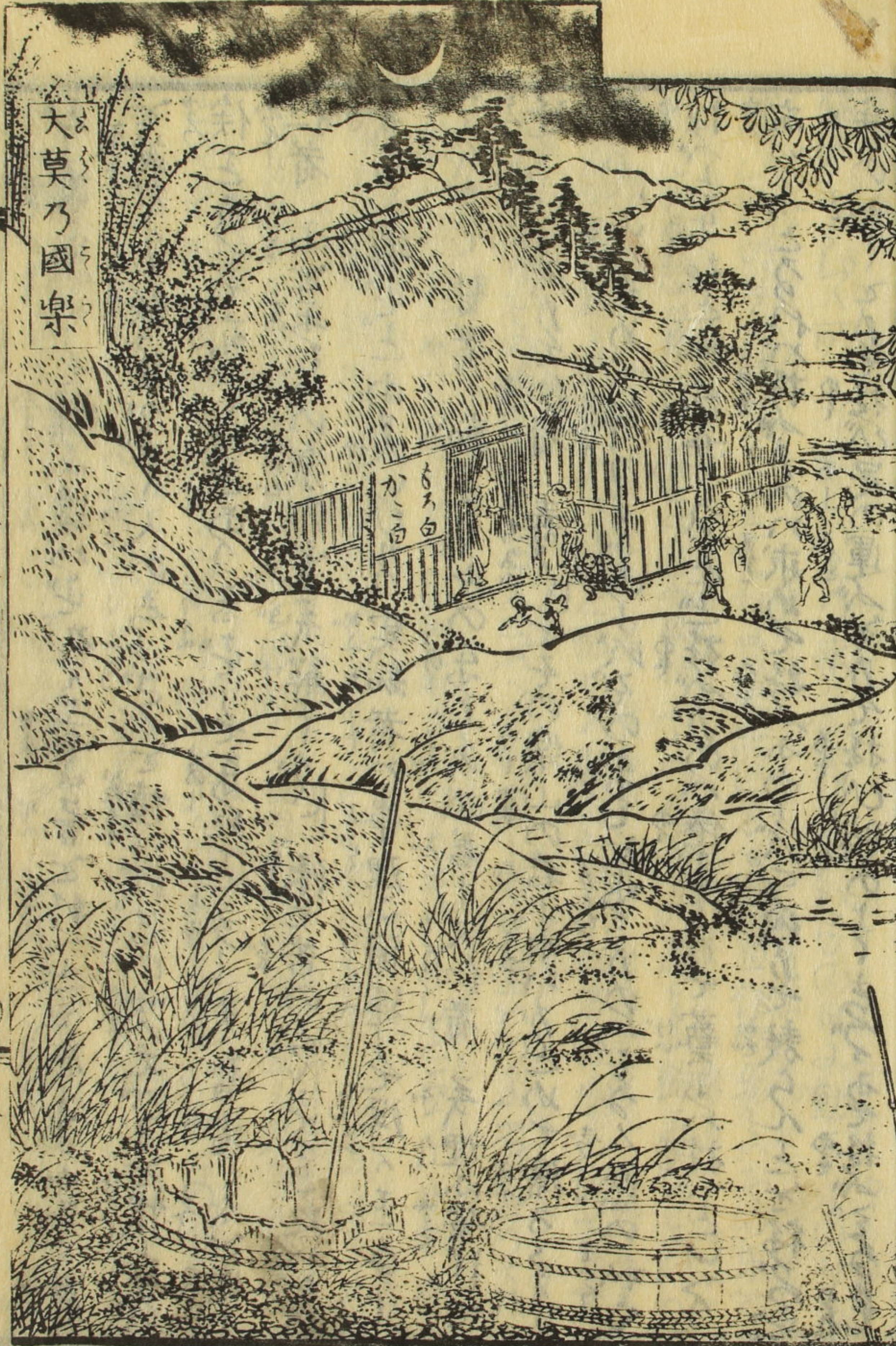
實物じつぶつもて真まの老莊家ハ稀まれなり。其その國くにハ由よしとあつて先王せんわうの道みちを改あらめらば。
 朕みづか祚そを兼かね一いつとめらう。堯舜ぎやうじゆん大禹たいう成湯せいとう文武ぶんぶの迹あとを慕あこひて。その迹あとを踐ふみて。
 その政まつりごとといふら。臣おん有ありし。亦また鼻はな陶たう伊い尹いん周公しゆくの迹あとを慕あこひて。其その迹あとをらて。
 朕みづかと佐とといふといふら。其その形かたちもる。又また良民りやうみんの迹あとを慕あこひて。その迹あとをらあら。
 て。奸けん惡あく不ふ善ぜんといふらののは。夫それ仁に義ぎ礼れい智ち信しんハ三聖人せいじんの野の能あたりし。
 乃すなはちは聖人せいじん既すでに後といふら。只ただその迹あとをく。五ご常かう八はつ紉しゆを除れ去るら。
 といふら。萬まん民みん慈じといふら。思おもふらといふら。志しといふら。恥ちといふら。狐こ狸りの魅まといふら。虎こ狼らう
 のまといふら。智ちといふら。愚ぐといふら。強かといふら。弱じやくといふら。拉らといふら。亦また彼かれ鷹たう鳥ちよう鷹たうの
 類るいを教といふら。蠅しやう蜂ほうの人といふら。蠱こといふら。狐こ狸りの禽獸きんじゆう不ふ等とうといふら。禁かむらむら。
 うらは。拒けつらの業山さん子しと捨てよく鳥と追ふらのあらんや。あらうらふら虚こといふら。
 といふら。仁にといふら。聖せいといふら。先せん儒じゆの迹あとを取とらば。只ただ自みづから不問とふらといふら。説せつのと説せつといふら。

しども終りの稀ある用ひらまじとまのつもの仁義の罪人と
 ろのるんへのと思はるる所為るるや。譬は法帖に古人の手の跡なり。
 まるれども後人こそ紙習ふと死の。その皮骨入るの君。儒道も又
 如此の。二重と聖人の迹といふも。学べばその道と極めて聖人の皮骨
 入るるん。國幸ひ小聖人の迹を傳へく。聖人の迹をよも先生と
 辨と樂と只管小辨と樂との説と。儒もあま。仏もあま。只管家
 と威と死かて樂と。その樂と。づら。後まのとせん。大約辨説を好むの。
 人を誅ざれば樂と。聲力あるの難。臨ざれば樂。陣法とく。そのの
 ハ。我れバ。樂と。智あるの。必。慮と。費。ば。ば。ま。ま。その。よ。と。よ。所。有。用
 の。ふ。似。れ。ども。その。弊。と。ま。映。と。る。と。長。り。新。惠。の。つ。よ。も。好
 て。思。慮。と。費。と。ま。の。跌。ま。辨。説。を。好。と。も。人。を。誅。ま。徳。を。傷。り。聲。力

ありとも。難。臨。む。死。の。危。く。陣。法。と。く。と。よ。も。残。ハ。必。危。く。が
 の。ま。る。る。ま。の。樂。と。る。死。ま。ま。と。ほ。人。を。と。ま。む。稀。や。危。と。ま。む。ハ
 要。る。と。ま。と。た。と。と。ハ。時。悠。と。ま。る。人。の。世。の。老。る。れ。バ。獮。漁。は。教。生。て
 樂。む。の。ハ。深。山。小。入。大。澤。臨。も。風。波。を。犯。せ。も。身。の。危。に。ま。る。と。糸。井
 と。樂。む。の。ハ。艶。曲。不。之。後。と。て。家。業。の。化。ある。と。ま。と。風。流。と。ま。む。の。ハ
 花。不。拈。び。月。不。嘯。と。詩。不。凝。り。歌。不。耽。り。て。月。日。の。つ。ら。ふ。る。と。ま。と。古
 器。古。書。画。と。あ。め。て。ま。む。の。ハ。獲。た。死。の。財。を。貴。び。て。用。ゆ。所。る。と。ま
 ぶ。金。銭。を。積。む。と。ま。む。の。ハ。貪。る。な。よ。む。中。く。煩。悩。の。絶。ぬ。と。ま。む。ハ
 好。色。と。ま。む。の。ハ。産。と。破。る。と。ま。む。と。盗。ん。で。ま。む。の。ハ。首。の。地。は。落。る
 と。ま。む。と。名。を。悠。閑。の。と。ま。む。と。情。慾。の。と。ま。む。と。自。我。の。と。ま。む。と
 あり。君子。の。道。不。楽。と。小人。の。教。不。楽。む。か。る。な。よ。孔子。に。仁。義。と。ま。む。と。老子。に

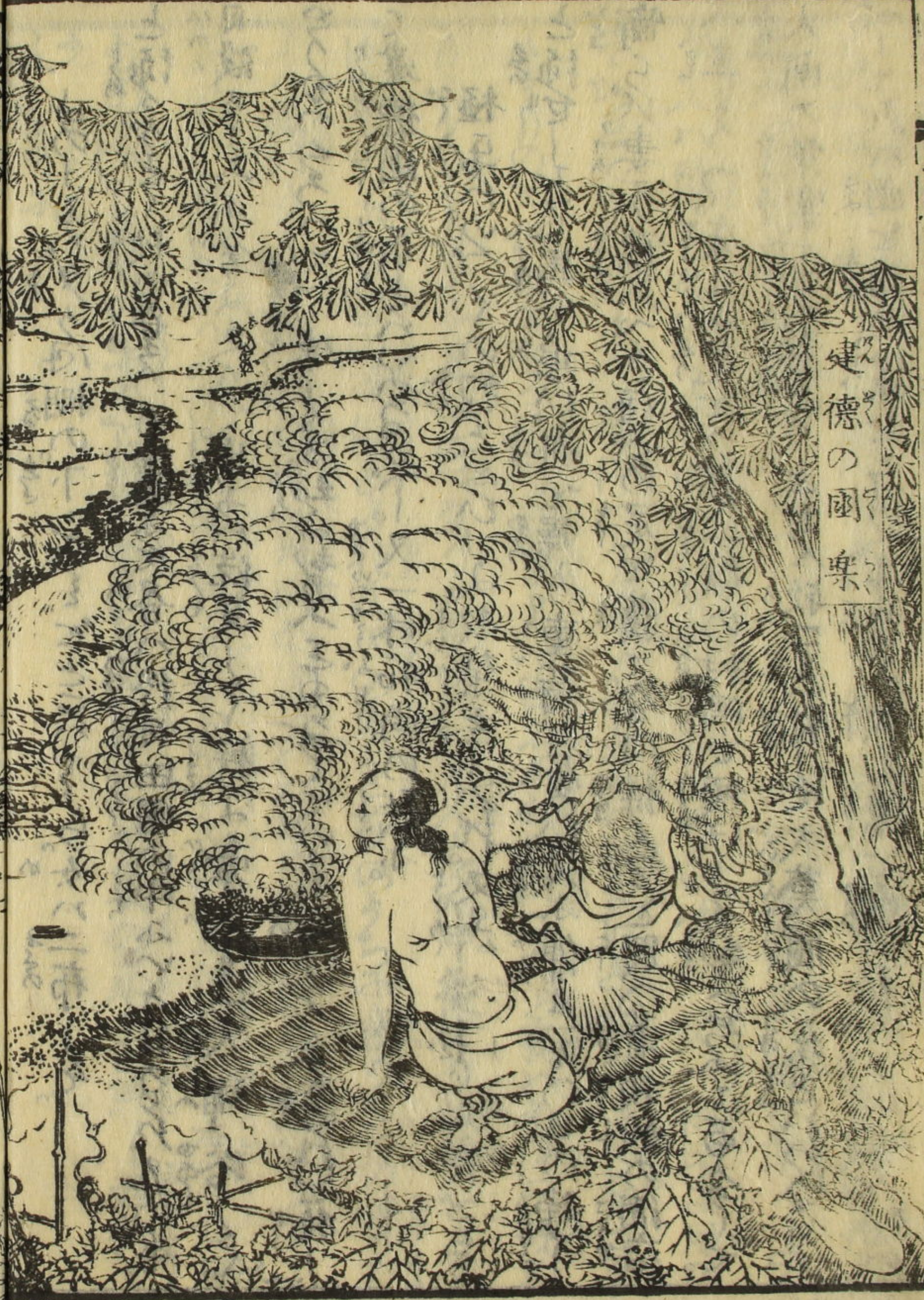
りのへ求めてゆくかめのみあふだ。あつるふまをとおるりのへは、是れの花見
 彼れの見某月某日と目と下て友らも、雨三人豫てその日と契りし
 が二人の障るこつとて、雨三日以前より。ゆびとひふ又入の俄頃、風の
 そらとてうち時と。同伴三人が中、たす入の缺けとどか、やどひさ
 するののを、何日までも待ぐ。聖人んとあふむの仇とら。夜のあけの吹ぬ
 りのえんや、口を身ひとらるりとも。ひたてんとも。甲後より奴婢とて
 じ偏提茶辨當の準備する。社よ天の気き夜のうらふ夢りてその曉方
 よう雨のく降そ。終日霽間あふれば、ひさう後とらて怒とらうし。
 園宅のりのを、びくびく。辨當とらら、膚とて。生涯あふ。五度由七度
 もあふ。直そのまをとおるをよ。まはばじて、表のあると速く西行上
 人の奇ふ。

一のい、夕々海棚の下に。ととて、女に二布して。
 と踊るが、秋の登り、も豊ふて、昏へ終日、田圃の中、いとほろりたるものも。
 日没るて、ふ舎よ、うて、馬あ、洗足、く。既よ、牽入、と夫婦、浴、く。
 ちりもつら、り、涼しく。ちよ、ちり、人、あ、めて、いふ、あ、う、らん。これを、秘、し
 て、建徳園の、楽、と、い、ひ、う、る、が、又、一、休、和、尚、の、歌、小。
 極、楽、の、び、く、の、程、と、い、ひ、り、よ、杖、杖、ま、し、り、又、六、か、し。
 と、極、ぜ、い、く、馬、と、追、ひ、舟、と、操、り、重、荷、を、負、ひ、人、不、備、ま、その、日、の、掙、り
 懈、ら、び、妻、子、娘、へ、き、月、の、足、と、獲、て、る、舟、餘、ま、る、と、腰、へ、著、相、知、の、酒、店
 へ、ま、り、つ、床、几、小、尻、と、う、け、て、一、碗、の、村、酒、と、傾、け、し、る。幼、ま、あ、ふ、と、あ、る、て、
 人、間、の、飲、樂、は、ま、極、ま、る、と、せ、ん、軟、二、道、秘、し、大、莫、國、の、楽、と、い、ひ、う、る。
 べ、い、れ、バ、國、と、治、め、家、と、さ、の、子、才、小、教、え、徳、と、娘、へ、り、の、い、ち、も、あ、か、の



大莫乃國樂

京相璠書後編卷四



建徳の國樂

世宗本紀卷四

てこれふやとりのみと下とん夫論辨不巧なる。蘇秦張儀ふきとりの
る。彼ホ六箇國よ遊説して一旦富貴と極められども徳おわつて称する
りのなり。この兩雄の鬼谷子と師といひ鬼谷子の縦横家なり。源黄老より
おく黄老と評有と。く老子の一書と説ひるめりりのハ支子と莊子
の。これて莊周ハ老聃の骨髓と獲て孔子とさうじても又等用ありと。
その書よ我より説劍の篇ハ説客のくあてサは子の意よあふ又盜跖
漁父の篇よいさく孔子と結るうとれた後人の附増とて東坡よりめ
そのうと唱ふる。莊子の舊五十三篇あり。郭象が注するを疑ひ
りのと刪去て今僅よ二十六篇存とといふ。あつれども。鄭穆公の時とむはくと
ホの諸篇あり。列子の莊子ハ先よとるりのあり。鄭穆公の時とむはくと
いふはよ莊子よとを稱せり。その書ハ篇大抵莊子尸子韓非子と相似り。

呂覽淮南子ホの諸道家又老子の皮肉と獲し。呂不韋ハ秦の劇病
と攻淮南の時と排る小節に諱忌の辞とりてと。おのく老莊ホ本つくと
ども。終よその骨髓とほむ故よ言と行ひと齟齬して或ハ奸邪ホ逞しく
戎ハ反逆と謀り。呂不韋ハ藥と仰て死し。淮南王ハ誅せらる。李斯と韓
非と。その師と共みはかくて韓非ハ李斯ハ殺され。李斯ハ又趙高よ殺され
と。刑罰よして思ふたがなよ悪と佐て國と下人よ殺して自を殺して豈
誠とらんや。李斯が始皇よまじくえて書と燔儒と坑よ世ハ老子とさうく
えられはる。老子ホ民と愚ふとある。自れよ因よとといふの。よや書と燔
儒と坑よして民と文盲よせんとと。政よ為よ因よして罪よを殺して
いつて老子の本意よらんや。かるをよ。復ゆる。秦ハ亡びよつた。凡道家
ハ辨あつて論をる。儒教ハ論をあつて辨る。一旦道家の辨ハ病乃能

ざるまじりしるがら。口を酸するの事あり。まじりしるがら。迷ひてまじりしるがら。曉れ
 りのぬく。迷ひてまじりしるがら。思ひとあるのの。究めて思ひのら。先生ゆす
 その二八ありて。迷ひてまじりしるがら。情のの。ゆつてその辨。百發百中せむと
 りとも。童蒙小益の。情のの。才の情の。生涯と老荘の
 といふ。世の狼狽の。恥べさ。萬巻の書と読て。
 萬里小往還せんとの丈夫の。所る。遠く又母の。去て求て
 危とある。君子の。この一條の。先生の為
 人情の。陳奮藻藉と。童蒙婦女子。退屈を。朕ゆ
 人情小疎と。今い。程の。口を。欽乐御の。王
 へ。身と性質の。笑の。為
 へ。又。用の。現。言の。耳。逆ひ。良。口。苦。岡。目。八。目

くれも。他の善悪の。と。七九の。交。又
 の。用。捨。と。の。外。道。も。先生。老。荘。の。説。を。樂
 と。る。び。う。老。荘。の。室。小。坐。して。何。有。の。御。小。拈。ば。因。縁。の。楽
 を。の。一。び。朕。今。徐。福。が。舟。を。り。て。日本。國。へ。送。る。べ。け。し。の。破。り
 少。と。の。あ。ぐ。く。勅。命。小。委。兵。衛。の。感。服。と。候。坐。小。拭。ひ。の。と。お。さ。る。く
 ま。う。の。勅。定。室。は。有。が。て。香。花。を。身。小。あ。ま。れ。と。某。の。た。め。拈。摩。を
 び。の。ら。し。る。と。神。島。仙。人。の。教。小。う。て。飛。舟。自。在。の。紙。老。婦。を。獲。て。以
 ば。萬。里。の。往。還。と。易。し。舟。車。を。の。る。小。及。び。ゆ。い。と。推。辞。し。る。が。欽。乐。王
 へ。な。て。先生。既。小。その。紙。を。獲。て。飛。舟。自。在。と。い。ふ。と。い。う。る。ゆ。き。と
 ま。う。の。紙。を。今。何。れ。ある。と。い。は。し。直。へ。ば。委。兵。衛。亦。さ。う。と。

何の友と云ふべし。班輸が雲梯墨玉翟が飛衣よ異るらば。
 學且ハ必飛ゆる。又降且といふと死の身をおろしく。彼へのその塵空
 不沖りゆ。あつるふ一旦を怒國や。件の紙衣を失ひしが。貪婪國めて
 ち息を獲らる。さすしもあぬ。國王呵々と笑せのひ物おのく
 流らうといふも。又必失ふ時あり。加以その紙衣よく飛ゆるてつる
 身を緊よるうともあらず。されよ乗る究めく危し。枉て水行らう歸り
 ゆくと叮嚀ふ仰て且とも。爰は兵衛の海推辭て従ひるべし。既
 殿の國を經えど危しともさひいひげし。今さら可憐紙衣を捨て舟よ
 んハ却危し。只このさふぬじりゆく。とまうせらる。さくハ二病は
 とく。有司ふ仰て。爰は兵衛と客館ふ休足さく。且と款待。物駭賜る
 べし。とぞ。さすしりふ。爰は兵衛のこも固辭をまうて。身を舟の暇を

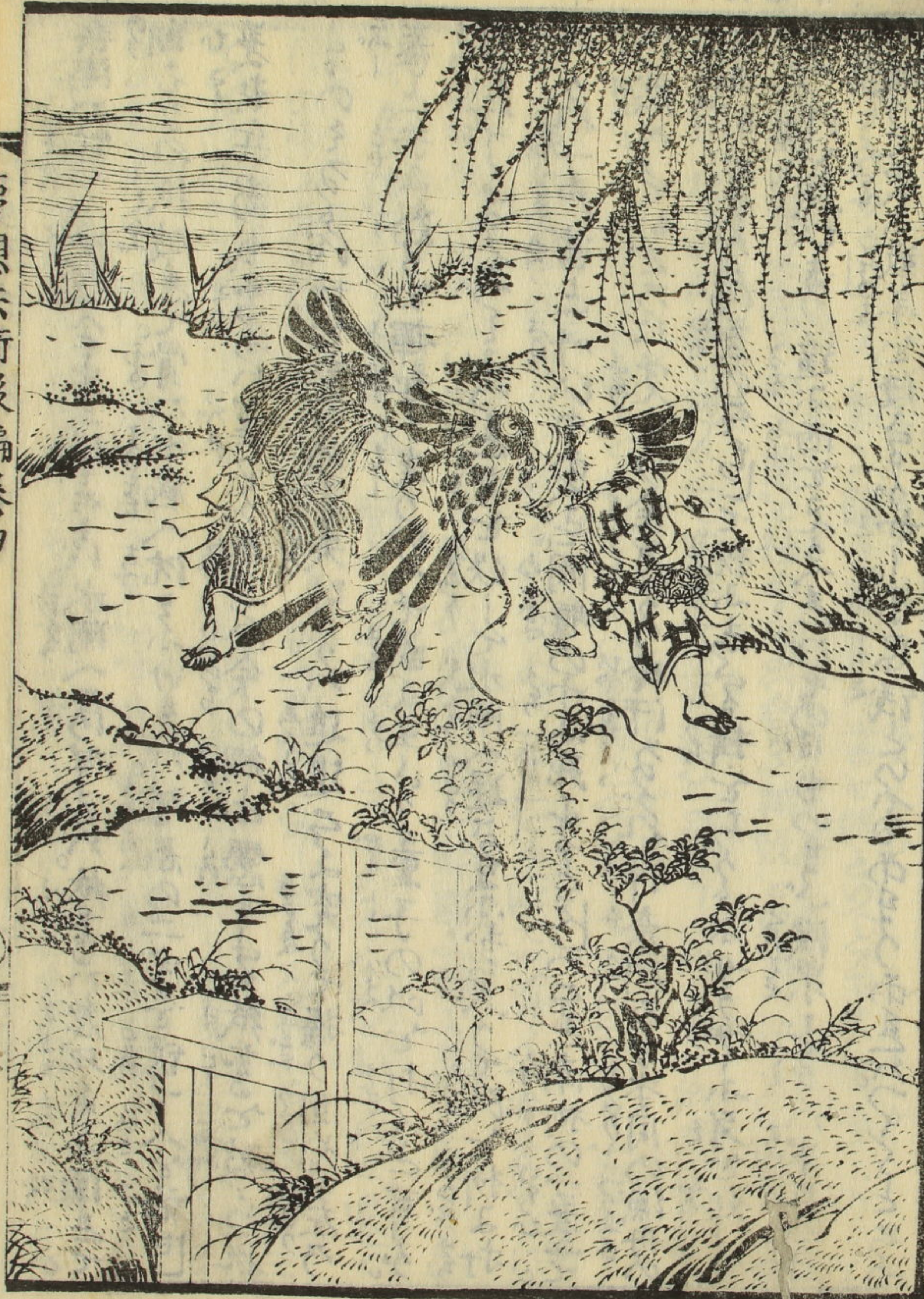
乞既小羅り。先とよるとれを。め仰て。さる小彼國王の面影。よく浦
 仙人ふ似れば。さる。と疑ひ惑ひ。原來ハ飲乐御の世。よ。蓬萊山
 あり。飲乐王の別人。さる。浦島翁の。又教諭。のふや。と推量
 且とも。堂上堂下。小諸司百官袖。とらぬ。され。同ふ。さる。とよめ
 官人亦小送。きて。王城と出。け。舊の如。よ。到。彼官人亦ハ。ぬ
 する。程。爰は兵衛の。飲乐王。小教諭。されて。ま。と。悲。國王の百
 新の。よ。浦島。ふ。似。と。さ。小。浅。く。も。鈍。さ。ぬ。忽。地。夫。の。と。
 速。よ。日本。へ。さ。ぬ。ら。と。さ。ひ。さ。ま。づ。く。さ。ら。ち。仰。ぎ。て。招。け。と。も。紙。衣
 ハ。何。如。由。た。ら。う。り。ん。同。ハ。名。暮。る。と。と。さ。る。小。降。の。來。じ。現。治。さ。る。り。の。ハ。夫。人
 と。た。あ。り。水。行。ら。う。送。り。ま。さ。る。と。國王の。宣。せ。さ。の。が。片。書。地。ハ。推。辭。され。ば。
 今。さら。紙。衣。も。あ。ら。う。と。て。王城。へ。ハ。く。さ。る。と。さ。ん。か。せ。と。さ。る。ふ。の。中

中よりうねが只彼天の羽衣を人ふとせり。色女は是るも彼此ふら。松の
 梢の目をつけてもく。田圃の間ふら。さんま。十歩むら。男の
 重がふら。ていと。天さる。紙老時をう。あて。これのつら。の。下。先
 かん。け。れ。び。ご。と。と。争ふ。と。それ。と。人。が。お。か。へ。く。て。け。く
 走り。近。づ。ね。み。件。の。童子。ホ。ハ。互。よ。ま。じ。放。さ。と。争。ひ。つ。紙。を。と。り
 と。裂。し。る。夢。想。兵。衛。ハ。吐。嗟。と。む。う。一。歩。と。十。歩。ふ。飛。ぶ。が。と。その。途
 みの。死。て。ん。ま。ば。紛。ふ。づ。も。あ。ぬ。ら。が。紙。を。う。ま。バ。面。を。一。茶。く。る。亦。報
 る。つ。て。忽。地。怒。ま。る。声。を。う。ま。は。ホ。し。る。ま。バ。紙。を。さ。か。つ。む。ら。は。よ
 裂。し。る。途。は。送。し。る。を。拾。ひ。ど。と。り。故。楽。郷。を。他。げ。る。た。ふ。る。つ。の。賊。奴
 と。罵。ま。げ。童子。ホ。え。う。つ。て。冷。笑。ひ。こ。ら。ら。び。ぬ。と。と。り。吳。國。人。う。み。吾。儂。の
 へ。送。し。る。の。を。拾。ひ。べ。と。と。り。天。う。降。し。る。夫。天。の。よ。み。る。と。取。ら。ま。げ。

却 禍ありとて。異國人のあるところ。は。い。れ。も。あ。く。と。後。者。兵。衛。ハ。ま。と
 ま。と。腹。を。甘。ま。吉。瑞。る。ん。ど。と。天。の。よ。み。る。の。と。も。い。れ。ぬ。紙。を。う。ま。の
 他。ま。る。の。の。み。て。天。う。自。持。と。降。し。る。ふ。あ。く。口。さ。じ。く。も。い。ひ。ら。ら。む。ら。そ。の
 賊。公。頭。然。し。る。舊。の。て。て。あ。く。返。せ。く。と。い。れ。た。け。バ。童子。ホ。發。ぐ。死。を
 る。く。ら。國。の。小。兒。ホ。粗。豆。を。陳。礼。容。を。設。け。灑。掃。徳。對。を。守。の。勅。し。て。己
 習。字。問。は。暇。の。く。又。兄。小。事。る。と。ま。と。と。る。も。多。く。紙。を。と。せ。ら。ん。い。ふ。の。は。こ
 る。の。益。の。弄。物。と。弄。び。て。ま。と。と。る。の。は。こ。ま。ら。國。ふ。る。た。り。の。あ。れ。が。送
 せ。人。の。あ。た。と。ま。ま。う。う。う。て。ら。田。の。暇。へ。う。け。て。ま。と。と。い。ふ。と。と。い。の。と。お。ん。身
 その。ま。ら。う。と。宣。の。を。惜。ま。て。返。さ。し。い。ふ。あ。く。は。お。ん。身。賊。を。あ。る。も。多。く。人。を
 偷。見。と。い。ふ。あ。く。あ。ら。ん。と。う。ら。む。と。罵。く。と。國。風。を。ま。が。と。う。び。て。美。理。の
 伶俐。く。恥。め。と。う。り。て。あ。れ。ぬ。と。回。答。も。あ。く。と。暇。を。隔。て。授。く。と。故。紙。を。と。後。者

夢枕神備後巻四

三十七



夢林心五衛後編卷四



Suzumaru

夢林心五衛後編卷四

四十八

○總評

聖賢の遺書をえてあつくその結を喜といふもいふその道とまじ
ぶりのハ遂に殃と惹き尋ぐり登るに齊小國氏といふのありて大
家富より又宋國より向氏といふのありてその家究てまじり死
しうてまじり齊よめてその術を請求めりが國氏こそ告ていふやう
見れり盗とよるのをもとめられ盗とよるふ一年あて口を糊とまじり
二年あて物をとらむば三年あて貯あまらありてまじりてつが州
小施とといふ向氏てあて喜びその盗とよる言を喻てその盗とよる道
を喻らばやがて取圍て垣と踏室を鑿目の入るふ子の罪とていふは
工あまらふとて盗とよる事顯は賊は似るの罪とていふは齊
その罪を購人為先相相傳の田圃居宅をまじり失ひあれりてまじり

ふ必にして國氏を怨一國氏ハみの教とて嘆息あん身が盗
とてその道とまじりふりのとよまじりるるん今審よこまじり
せん天よ時あり地よ利あり日盗とよるまじりハ世の賊とまじりるる未
と殖てこれを鬻又獸と獵又魚を取てこまじりと鬻かへまじり家富
とまじり天地兩家の潤澤と盗と又山沢の産育るを盗と竹木を伐て
垣と築室と建陸よ禽獸と盗と水よ魚を盗と日有とまじり
と抑盗よあまじり何そや失木苗竹木禽獸魚鼈ハまじり天の地
所ありて日有ありまじり有るまじり日有とよるあまじりこれを盗む
とまじりかまじり日造化の功を盗むと公道ありて殃あり亦米穀
金錢珠玉衣裳雜具ふ至て人まじりを人又これを聚むとまじり
人能ののちて天のよまじりまじりあまじりあまじりあまじり私慾とてこれ

と盗人と云ふは、生地は罪を犯す。かくて孰と云ふは、心んや。こゝ
 とをさへべし。理義ハ自我の理義ありて聖人の私に似り。殺するふあは
 るの理義ありて理義を説くも又自然の理あり。既し自然の理義
 を次とて、つら有と。遂は童蒙を喻とて死ハ寓言と云ふは、
 て罪の死と推てさへ。爵禄富貴ハ人他にて。天の爲りぬまふ
 賊臣勢ハふまふと。位と名と。使使ふと富を盗む。こゝを有と
 するは、その罪の脱れが死と。拒りまふと。病愈て医師ハ
 人巧を盗む。と。つら有と。その罪とまふと。病愈て医師ハ
 草礼せざるの人の物まふ。て。酬謝の礼る死の人の。古歌新句を盗む。
 夫れと云ふの人は、備りて。有と。その人の待文章書画を盗
 て奪ひ去るの。古人の偽書と。利を射るの。まふは天のまふと。あは
 或ハ人情ふ。或ハ公道は。いふふと。竟又曉る。そのを罪は
 と。いふと。天の。花と盗む。つら有と。罪するは。あは
 中ハ小説と。似りぬ。盗と又まふ。古今興敗聖王賢臣義士孝
 女烈女の跡鬼神老仙の聖蹟古語舊説悉皆これと盗む。有
 と。まふは。既又の書ふ述る亦。是と。いふと。死ハ今
 日批評するも。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 切。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 くる。癡る。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 ぶると。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 の。これと。あらん。

夢想兵衛胡蝶物語後編卷之四大尾

或ハ人情ふ。或ハ公道は。いふふと。竟又曉る。そのを罪は
 と。いふと。天の。花と盗む。つら有と。罪するは。あは
 中ハ小説と。似りぬ。盗と又まふ。古今興敗聖王賢臣義士孝
 女烈女の跡鬼神老仙の聖蹟古語舊説悉皆これと盗む。有
 と。まふは。既又の書ふ述る亦。是と。いふと。死ハ今
 日批評するも。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 切。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 くる。癡る。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 ぶると。其の。其の中ハ。又。説く。癡
 の。これと。あらん。

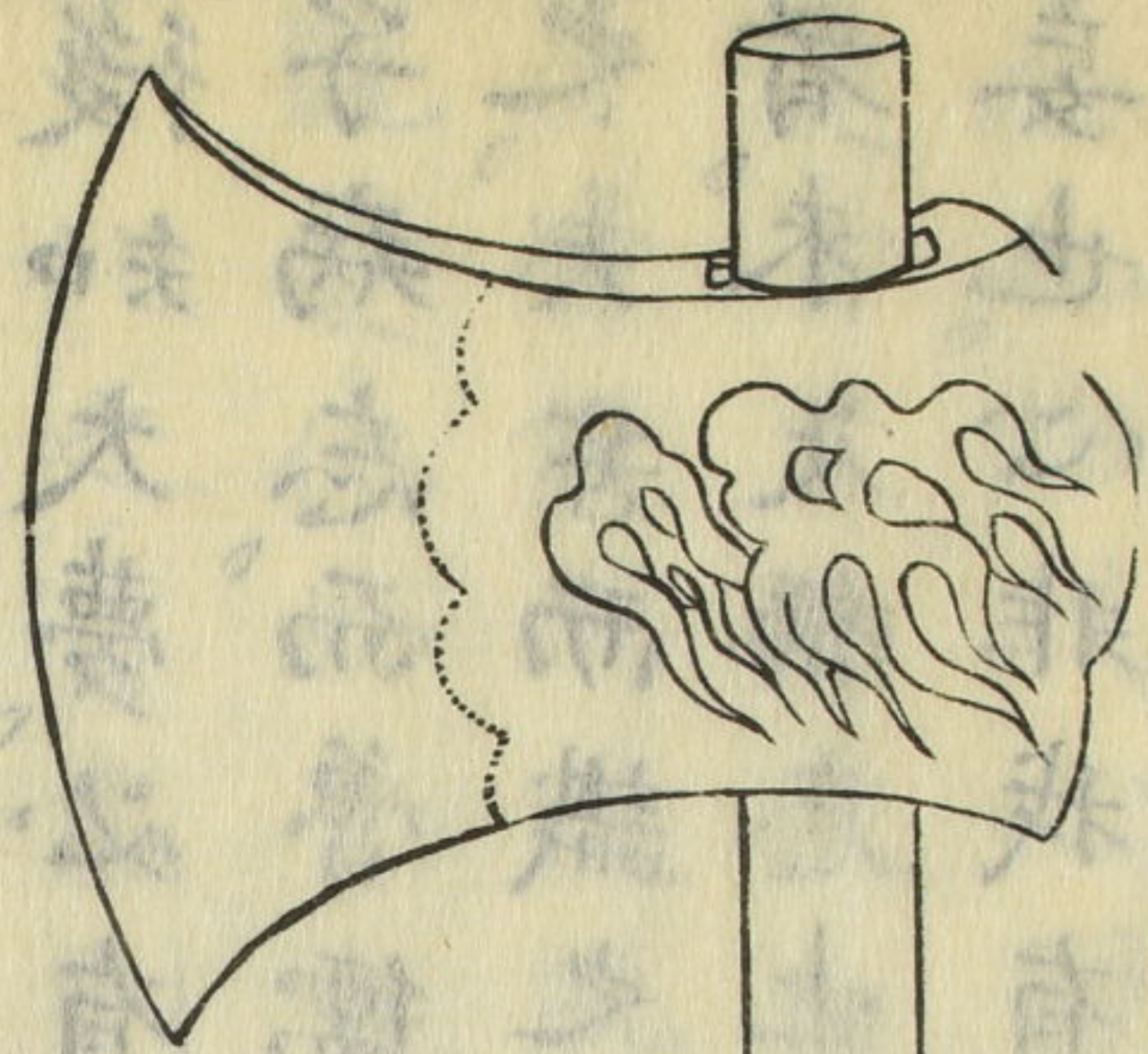
予自髫歲愛讀書。而善記焉。及壯年耽著
作。而皆忘焉。今知之矣。我識也。非我性。我
忘也。非我心。習而記焉。勞而忘焉耳。人毛
髮皆黑。而後白。人眼目皆明。而後翳。人齒
牙皆銳。而後脫。人心神皆精。而後倦。設夫
觀變化於一身。則老幼終始。以為我有。順
一化之。自虛。則識與忘。豈我心耶。一形之
開闔。一性之往來。莊周嘗以蝶夢喻之。故
曰。萬物同根。是非一氣。奚物而為周。奚物

而為蝶。認周以為非蝶。是未能忘我也。執
蝶以為非周。是未能忘物也。必有大覺。而
後知大夢。必有真人。而後有真知。是故華
子病忘。而魯儒治之。顏淵坐忘。而仲尼知
之。夫苦而識之者。未足稱識也。勞而忘之
者。未足稱忘也。一強一犯。竊々然而私之
妄也。心非我有。而作是書者。心耳。名非我
名。而命是書者。名耳。有乎無乎。我未能辨
焉。於是乎忘有無。庚午仲秋望。馬琴再識。

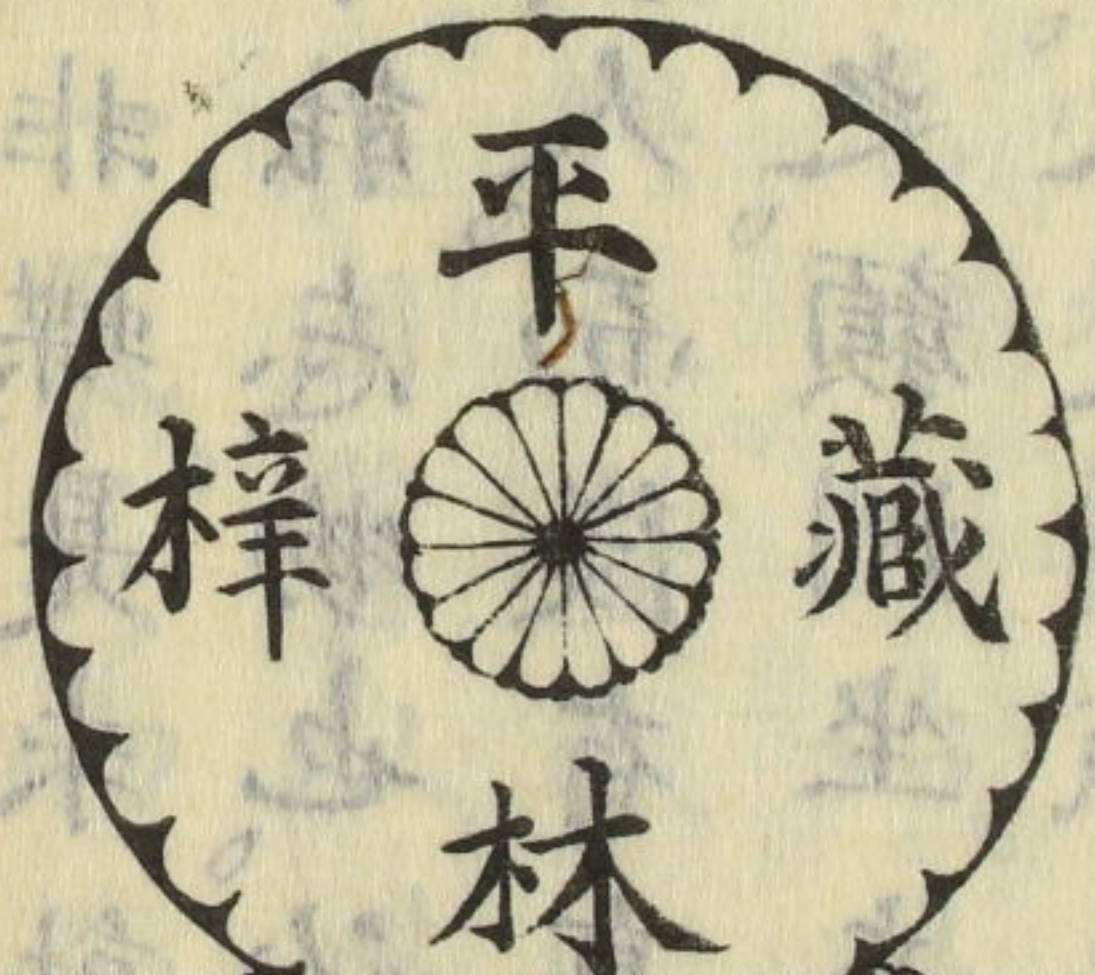
東都

曲亭馬琴著作

一柳齋豐廣画



全本前後九冊
文化庚午發市



和漢
西洋

書籍賣捌處

大隱書齋備傳券明書

群玉堂河內屋
岡田茂兵衛

